

善光寺霊園ニユース

横浜やすらぎの郷霊園

◇やすらぎの塔

「願はくははなの下にて春死なむ

そのきさらぎの望月のころ」

(西行)

霊園管理事務所から墓域に登る河津桜の間に「やすらぎの塔」を建立いたしました。

「やすらぎの塔」はお遺骨を大白然に還す合祀塔です。

昨今はお墓の形態も多様化してきております。マスコミでもお墓について取り上げられることが多くなりました。樹木葬や海洋散骨、宇宙に飛ばす……宇宙葬もあるようです。善光寺で直接管理をしている、横浜やすらぎの郷霊園も十五年前の開園当初より、多くの相談を承って参りました。中でも墓地継承について悩まれる方が多く、その対応として永代供養墓「やすらぎの碑」を建立致しました。

永代供養墓「やすらぎの碑」では、地下に納骨室を設け骨壺のままお遺骨をご安置しております。

骨壺でのご安置期間の違いで、合葬がっそうと合祀ごうしの二つのタイプがあり、その期間は合葬で三十二年間（三十三回忌まで）。合祀で十年間となります。骨壺のままご安置する期間を経過した方々を土にお戻し、永遠のやすらぎの場として、



その御霊をお祀り出来るよう誓願し建立されました施設が、「やすらぎの塔」です。

塔の下には深く、広いカロートがあり、長期間にわたって多くの御霊をご供養させて頂きます。

永代供養墓「やすらぎの碑」からの合祀だけでなく、一般の墓地からの合祀も承ります。

また、善光寺檀信徒の皆さまで、墓地についてお悩みの方、お遺骨を自然に還したいと思っている方や他墓地からの改葬を希望されている方、管理料不要の善光寺永代供養墓・やすらぎの碑・やすらぎの塔をご検討下さい。詳しくは管理事務所までお問合せ下さい。

241-0802

横浜市旭区上川井町1749-1

横浜やすらぎの郷霊園管理事務所

TEL ○四五―九二四―〇二一〇

◇善光寺永代供養墓◇

やすらぎの碑・やすらぎの塔

1、合葬がっそう ※やすらぎの碑に埋葬。

単独型 永代供養料 五〇万円

夫婦型 永代供養料 八〇万円

三十二年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

2、合祀ごうし ※やすらぎの碑に埋葬。

一 霊 永代供養料 三〇万円

十年間骨壺にて安置し、以降やすらぎの塔に合祀

3、合祀2 ※やすらぎの塔に直接合祀。

一 霊 永代供養料 二〇万円

合同合祀供養祭にて合祀

○ご希望の方には石版に一名づつ墓誌を彫刻致します。

(有料・三万円)

○他霊園からの改装など複数名の契約(三霊以上)については金額のご相談も承ります。

○生前申込み受け付けております。

○詳細はやすらぎの郷霊園管理事務所までお問い合わせください。



◇やすらぎ通信

やすらぎの郷靈園では、年四回『やすらぎ通信』を発行しています。靈園からのお知らせや、善光寺の行事紹介などその時々のお話を掲載しています。クロスワードも掲載しました。挑戦してみてください。

きょう彼岸 菩提の種を蒔く日かな

たね

種子さえ蒔いておけば
いつかかならず芽が出る
よいたねにはよい芽が
悪い種子には悪い芽が
忘れたところに
ちゃんと出てくる

《詩集『雨の日には雨のなかを風の日には風のなかを』より》

相田みつをさんの詩に『たね』という詩があります。

仏教では因果を説き、ご縁を大切にします。因果とは原因と結果。その間には様々な条件が存在します。それを私たちは「ご縁」といいます。ある一粒の種。その種を土に蒔き、陽にあて、水をやる。やがて芽が出てすすく育ち、花を咲かせます。種がある花が咲く。

お釈迦さまは、

比れあるが故に彼あり、
此れ起こるが故に彼起こる。
此れ無きが故に彼無く、
此れ滅するが故に彼滅す。

と示され、すべてがつながった存在であると説

かれます。

これとかれ（因と果）との間にある条件が縁。太陽や水や土。これらがご縁。目に見える縁、見えない縁。縁は意識するしないにかかわらず、私たちをつなげています。それはあたかも縦横無尽に張り巡らされた糸が一枚の布を織り上げられるように、様々な縁が私たちをかたち創つてくれているのではないでしょう。時の流れに沿う『縦の糸』。今をつながる『横の糸』。

頂いているご縁、その元になる種の部分（因）にしっかりと心を向けることを恩と言います。（因に心で恩）。あなたの恩人は誰ですか？ 今日まで自分を育んでくれたすべてのご縁に感謝。環境も条件。ご縁です。環境によって人は変わる。

道元禅師は『霧の中を行けば、覚えざるに衣しめる』また、『よき人に近づけば、覚えざるによき人となる』（『正法眼蔵随聞記』）ともい

われ、自覚の有無ではなく、自然と身につくものがあると示されています。

子は親の背中を見て育つとも言われますね。出来れば恵まれたご縁の中で歩いていきたいものです。

しかし時として自分では選びようのない環境、逆風の時もあります。

向かい風、逆境に逆らいながら、その中でもしっかりと種を植えて地に根を張っていく生き方をしていつか美しい花を咲かせよう。

NHKの震災支援プロジェクトのテーマソングは『花は咲く』ですよね。

『やさしき通信』31号

〈やすらぎ通信 一口コラムより〉

もらっても、あげても嬉しい、お年玉

子供の頃お正月の楽しみといえば、お年玉。

お正月の由来は、新年の神様である『正月さま・年神さま』を家にお迎えする行事にあるといわれます。正月さまが今年一年の生きる力『御魂（みたま）』を授けに各家にやってくる。お正月になると一つ年齢を足す『数え歳』もこの教えからきているのでしょう。

誕生日がきて歳が増える満年齢ではなく、お正月になると皆一斉に年齢が一つ増える『数え歳』。

正月さまが家にくる目印が門松、そして家中の依り代が鏡餅といわれます。そして正月さまの御魂をお雑煮などにして食べることでその力を頂く。また家の主人が家族にこの餅を配る

ことが『お年玉（魂）』をあげる由来とも言われます。その慣習がお餅からお金や品物になったようです。

お年玉をもらって喜ぶのが子供。

その喜ぶ姿を見て喜べるのが大人。

もらうだけでなく、他人に何かを与えることで、その人が喜ぶ姿を見て共に喜べる心。与える喜びを感じることが出来たらいいですね。

お子さんだったら、例えばお手伝いしたら大人の人が喜んでくれる姿に喜ぶ心。難しく考えなくても当たり前のように行っている挨拶や笑顔を与えるだけでも周りの人はきっと喜んでくれますよ。

「喜びが喜びを連れてくる」そんな一年でありますように。

春になる！

小学生の問題です。

氷がとけると何になるでしょう？

水は0℃で氷になり、一〇〇℃で水蒸気になる。だから正解は……水ですよね。

でもこの問題に、ある生徒が『春になる』と答えたそうです。降り積もった雪が氷になる雪国の子供でしょうか。確かに、暖かくなり氷が解けると春がやってきます。素直でやわらかい発想だと感心してしまいました。

春になり暖かくなると、冬の間枯木のように葉を落としていた桜の木々も一斉に花を咲かせます。

『鳥鳴き、花咲う（笑う）』。きれいな花を観て微笑むことが出来る。幸せを感じることが出

来る季節、春がもうそこまで来ています。

水は温度に依ってそのかたちを変え、草木は気温に依ってその姿を変えていきます。私たち人間は何に依って変わって行くのでしょうか。

冬から春になり暖かくなると気分も陽気になりますが、春になって花が咲いてもきれいだと思えない、なんとなくつまらない、そんな時もありますよね。そんな時は、きつと氷のように心も固まっている時期なのかも知れませんね。何かに執着し自分自身で心を固くしてしまつて、周りが見えない時期。でも何か一つのきつかけで人の心は変わります。

そのきつかけは何か？どこにあるのか？

その答えは案外近くにあるかもしれません。

脚下照顧（きゃっかしょうこ）という言葉がやすらぎの郷事務所内に置いてあります。足下を照らし顧みる。今、ここを大切に、よい縁

に気づくこと。そして春らしい暖かさで人と接することができたなら素敵ですね。ひとそれぞれの花をいつまでも笑顔で咲かせ続けることができますように。

「見るところ花にあらずということなし。
思うところ句にならざるることなし。」

(松尾芭蕉)

『やすらぎ通信』 33号

今年もお盆の季節が巡って参ります

お盆のお経をあげにご自宅にお伺いする棚経。短い時間ではありますが、心に残るお話を頂戴することもあります。

年老いた母親を見送り、初盆を迎えたある女

性のお宅でのお話。

「厳しい母でしたが、亡くなられて何が寂しいかというと、夕方、夕食の味付けを教えてもらうことが出来なくなってしまう事。今でも味噌汁を作っているとき、ちよつと味見してみてくれる？　なんて言ってしまう事があるんですよ」と語られました。

日常のほんのちよつとした事で感じる寂しさ。

作家の城山三郎さんは奥様に先立たれた後に、「そうか、君はいないのか……。」と、ふとした時に思うものだと語られております。

同じく奥様に先立たれたあるお坊さんは、「若い時は、『おーいお茶！』と言っていばつていたけれど、今は『おーいお茶。入ったぞ！』と仏壇にお供えしているんだ」と教えてくれました。

また、幼い孫と遊んでいる時に急に涙がこみ上げてきて「君にも見せたかったなあと……」。何気ない毎日の生活の中、ほんの些細な事が心にくっと響く事があるんだよと話される笑顔の奥に人生の深みを垣間見た気がしました。

お盆には帰ってくる。待つ人の心の中にいろいろな想い出と共に。

今年もお盆の季節が巡って参ります。

『やすらぎ通信』 34号

『くち』から出るもの、入るもの

《口から入るもので、

体を傷つけることがあります

口から出るもので、

心を傷つけることがあります。》

口から入れるもの。つまり食べ物です。食べ物は栄養となり私たちの身体を作り、またエネルギーの源となり、細胞の代謝を助けます。

栄養は「さかえる」こと。養は「やしなう」と。食べることは、身体を元気に健康に保つために必要不可欠です。でもこの食べ物が身体を悪くする事もあります。食べすぎ、飲みすぎはもちろんの事、片寄った食生活も体を壊す原因となります。

昨今流行の本では、「これを食べたらだめだ」とか、「これが体によい」とか、色々な情報が溢れています。でも昔からの智慧を学び、旬の食材を好き嫌いなく食べることも大切ですね。腹八分目に医者いらず。「食欲の秋」でもバランスのよい食事を心がけたいものです。

口から出るもの。それは言葉。『口は災いのもと』ということわざがありますが、言わなく

でも良いのについ調子にのってつい一言、口に
してしまい気まずい雰囲気……。そんな経験
誰でも一度はありますよね。言葉は相手を傷つ
けると同時に言った本人も傷つけます。

会話にもスピード・テンポが求められるこの
頃ですが、頭に浮かんだ事をすぐ言葉にするの
ではなく、ひと呼吸おいて会話しても良いので
は……。

くちから入れるもの、出るもの。どちらも毎
日の生活で大切なものです。

身体や心を傷つけることのないように少し気
をつけて、毎日を快適に過ごしたいですね。

『やさずらぎ通信』 35号



■クロスワードパズル

〈「やさらぎ通信」31号〉

☆グレーのマスに文字を組み合わせて

言葉を作ってみてください。

【タテのカギ】

- 1 仏・法・僧の事。聖徳太子は篤くこれを敬えと言われました。
- 2 性格のこと。
- 3 これの無い世界を目指します。
- 4 仏壇にお祀りします。
- 5 二年ごと
- 7 生前を偲び、悼みます。
- 9 罪を悔い、仏前に許しを請う作法の際唱える言葉。
- 12 腕につけるサポーターの一種。
- 15 銀行に預けたお金
- 16 最近忙しく○○多端な日々です。
- 18 ヒマラヤの山 8167m! ○○ラギリ

【ヨコのカギ】

- 1 仏・法・僧に帰依します。
- 6 仏教でいうこの世の苦しみ。
- 8 悟りを求めて修行する。観音様や地藏様。
- 10 フェイスブックでよく見ます。

1		2	3	4		5
		6			7	
8	9			10		
11			12		13	
	14			15		
16			17			18
19						

今日彼岸

□□□□□を詩く日かな

19 17 16 14 13 11

これを味方につけると強いですね。
 仏教でいう煩惱、三毒の一つ。○○・ジン・チ。
 西遊記で有名な三蔵法師、般若心経も漢訳しました。
 魚を入れる網。
 NHK朝の連続ドラマ『あまちゃん』の主人公 天野○○。
 日本書紀。建国の天皇。

「やすらぎ通信」33号

「タテのカギ」

- 1 春の初め、新春。
- 2 辛子あえがおいしい春の味。
- 3 働く車、コンクリート○○○○車。
- 4 ○○一輪、一輪ほどの暖かさ。
- 5 季節をあらわす言葉。
- 7 「加減乗除」の減は○○算。
- 9 お餅は○○○○がいい食べ物ですね。
- 10 乾燥剤、○○カゲル。
- 11 奈良から和歌山に流れる川、別名吉野川。
- 12 一つのこと打ち込む、ひたむきなさま。
- 13 お風呂に入る前にはこれをしましょう。
- 14 今回のクイズの出来は、○○上出来かな？
- 15 八幡神社の総本宮、大分にある○○神宮。

「ヨコのカギ」

- 1 桜の開花が楽しみです。
- 4 三月は弥生。四月は？
- 6 浜松市にある史跡。○○○○○観音（塚）。
- 8 根室地方の名産。○○○○カニ。
- 10 皮をはぎ、削ったままの木。
- 13 他人のもの。大切に扱います。
- 14 子供や孫の写真の人も多いのでは？

17 16
アベノミクスで下げ止まり 上昇のきざし？
神事に使われる弓 万葉集では枕詞

1	2	3		4		5
6			7			
8					9	
				10		11
	12		13			
14		15			16	
17						

（答えは、105ページ）

4月8日は□□□□□

お釈迦様の誕生日

◇やすらぎ寺子屋　くほとけに親しむく

やすらぎの郷霊園では、毎月一回週末に「やすらぎ寺子屋」を開催しています。

お釈迦さまや祖師方のお言葉に触れ、共に学びあい、仏の教えを日常に取り入れて心やすらかな日々を過ごす。そのきっかけになればと始め、来年は五年目に入ります。

《内容》

○椅子坐禅

調身　姿勢を調える

調息　呼吸を調える

調心　心を調える

緊張しないで楽に呼吸がしやすい姿勢を探して座して下さい。

無理せず骨盤を起こし脊柱のカーブも意識してバランスとり、深い呼吸、腹式呼吸で息を長

く吐いて下さい。

浮かんでくる想いに心を乱されないよう連想、物想いにふけることないよう、姿勢と呼吸に意識を戻して、今を感じて下さい。

気持ちがあすつきりとなりますよ。

○法　話くお経に親しむく

「お経に親しむ」と題し、善光寺経本をテキストに『開経偈』から毎月レジュメをお配りして学び始めました。一年かけて『般若心経』が終了し、続いて『修証義』を一節ずつ扱っていきます。

来年は、第四章の「発願利生」からです。言葉の解説だけでなく、その背景や行間を感じていただけるように共に勉強していきたいと思えます。

○茶話会にて

お経の勉強の後には、その時々話題になったニュースや歌などを紹介しながらお茶をいただいています。たとえば、新聞の切抜きから…。

『読売新聞』編集後記より

◆めしべとおしべだけでは受粉できない。風や虫が仲立ちをする。先日八十七歳で亡くなった吉野弘さんに『生命は』という詩がある◆（生命は、その中に欠如を抱き、それを他者から満たしてもらうのだ）（詩集『贈るうた』）。草花に限るまい。人の一生にも、受粉を助けてくれる風や虫がいる。その人には、愛らしい少女が「風」であつたらしい◆若手ダンサーの登竜門、ローザンヌ国際バレエコンクールで長野県松本市の高校二年生・二山治雄さん（十七）が優勝した。七歳でバレエを始めたきっかけは「好きな女の子がやっていたから」という◆風は受粉

を手伝おうと吹くのではない。二山さんとバレエを結びつけた少女もたぶん今、自分が大輪の花を咲かせる手伝いをしたことに気づいていないだろう。えにしの糸の不思議さよ◆吉野さんの詩は結ばれている。（私も あるとき、誰かのための虻だったろう、あなたも あるとき、私のための風だったかもしれない）。愛らしかった時期こそないが、小欄が知らず知らず受粉を手伝った花も、どこかに咲いているのだろう。根拠のない想像に、ちよつと胸を張る。

（平成26年2月4日付）

生命のつながり、ご縁や般若心経の空のイメージを語り合いました。

生命は

吉野 弘

生命は

自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で

虫や風が訪れて

めしべとおしべを仲立ちする

生命は

その中に欠如を抱き

それを他者から満たしてもらうのだ

世界は多分

他者の総和

しかし

互いに

欠如を満たすなどとは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれていている者同士

無関心でいられる間柄

ときに

うとましく思うことさえも許されている間柄

そのように

世界がゆるやかに構成されているのは
なぜ？

花が咲いている

すぐ近くまで

蛇の姿をした他者が

光をまとって飛んできている

私も あるとき

誰かのための蛇だったろう

あなたも あるとき

私のための風だったかもしれない

〈詩集『北入曾』より〉
きたいりぞ

新聞の切り抜きをもう一つ……。

『読売新聞』 編集手帳より（抜粋）

◆月刊誌「文芸春秋」の編集長などを務めた車
谷弘さんが、作家の内田百閒に叱られた思い出
を著書「わが俳句交遊記」に書いている。百閒
に「お忙しいですか」と聞かれ、「忙しくて困

「忙しい」と答えたときのことという◆「忙しい」といふのは、それは人に向かって尋ねるときの言葉ですよ。自分で自分を忙しいというのはバカです。一日二十四時間を自分で適当に処理できないで、どうしますか」と◆その説に従えば恥ずかしながら、一年のほとんども「バカ」で通している。上に「大」の字がつくのはやはり、仕事が何かと立て込む年の瀬である(中略)

◆そう言いつつ、差しあたって読む暇のないミステリー小説を求めて書店をうろつき、出かけもしない旅の行程を時刻表で調べている。忙しい時ほど心がよそに遊ぶのはなぜだろう。「極めてつきのバカだからです」と百間先生の声が聞こえる。

〈平成20年12月24日付〉

誰でも経験があると思いますが、「忙しい時ほど、心がよそに遊ぶのはなぜだろう」。

心をよそに遊びにいかせないで、「今、ここ」に落ち着かせる。それが禪だと思ふのですが、どうでしょう。なかなか出来ませんが、坐禅して少しでも「バカ」から抜け出すことができたらなあ……。

《やすらぎ寺子屋 平成二十七年 上半期の予定》

第四十四回 一月 十日(土)

第四十五回 二月 一日(日)

第四十六回 三月 一日(日)

第四十七回 四月十一日(土)

第四十八回 五月 九日(土)

第四十九回 六月 七日(日)

○椅子座禅(約40分)

○読 経(約5分) 般若心経

○法 話(約15分) 『修証義』講座

・『修証義』第四章から一緒に学びましょう。

茶話会 ちよつとひと息